

# 2023年度 自己評価・学校関係者評価報告書

2024年3月29日

学校法人東洋大学 京北幼稚園

## 1. 自己評価項目の達成及び取組状況

	自己評価項目	評価(ポイント*)	取組状況
<b>【園児の指導に関すること】</b>			
1	指導計画	B (1.13)	全教員が「十分に達成している」「達成している」と回答している。各教員が、保育に真摯に取り組んでいることが見て取れる。
2	環境の構成	B (0.75)	「達成している」と回答している教員が多いものの、例年指摘されてきた「環境に配慮する指導」項目において教員の多くが課題として捉えている。都心にある園としては、工夫が必要であり取り組むべき課題である。
3	保育方法展開	A (1.59)	全教員が「十分に達成している」「達成している」と回答している。概ね本園の保育方法は順調に展開されていると考えられる。
<b>【学級経営その他に関すること】</b>			
4	学級経営	B (1.00)	園児一人一人を大切にするという園の方針に沿った指導がなされているアンケート結果である。ただ、施設設備や安全指導に若干の課題意識が見られた。今後、万全を期した取り組みに向け総点検していく必要がある。
5	保護者への対応	B (1.29)	「事故、問題が起きた場合の保護者への説明、対応」「問題行動やけが」などに対して、今後も保護者対応や危機管理のための園内研修会なども行い、より安全な教育環境を目指す努力をしていくことが必要と思われる。

評価 (A…十分に達成している B…達成している C…取組みが不十分である D…ほとんど取組みができていない)

\* : 各教員の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして自己評価項目ごとに平均値を算出し、1.5以上を評価A、0.5以上1.5未満を評価B、△0.5以上0.5未満を評価C、△0.5未満を評価Dとした。

## 2. 総合的な自己評価結果

評価(ポイント*)	理由
B (1.26)	全評価項目に亘り「十分に達成している」「達成している」の回答が大部分を占めており、概ね適切に園が運営されていると評価できる。一方で評価基準ごとに見ると、「環境の構成」における「自然の変化や生物の生育などを通して環境をとらえ、保育に生かす」、「学級経営」における「施設設備の安全管理、園児への安全指導」といった基準の評価が低い傾向にあり、取り組むべき課題が浮き彫りになっている。

評価 (A…十分に達成している B…達成している C…取組みが不十分である D…ほとんど取組みができていない)

\* : 各教員の回答をA=2ポイント、B=1ポイント、C=△1ポイント、D=△2ポイントとして全項目の平均値を算出し、1.5以上を評価A、0.5以上1.5未満を評価B、△0.5以上0.5未満を評価C、△0.5未満を評価Dとした。

### 3. 自己評価結果に伴う課題

	課 題	具体的な取組方法
1	「自然との関わり・生命尊重」に繋がる活動の拡充	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の一つである「自然との関わり・生命尊重」に繋がる活動を都心にある園としてどのように工夫し拡充していくかについて、東洋大学のリソースを活用した取組み等を検討・実施していく。
2	施設設備の安全管理、園児への安全指導の強化	施設設備の安全管理については、預かり保育の拡充により稼働日数・時間が増加するため、教職員による点検をさらに強化するとともに大学管財部と密に連携していく。園児への安全指導についてもより効果的な指導方法を検討・実施していく。
3	リスクマネジメントの強化	「事故、問題が起きた場合の保護者への説明、対応」「問題行動やけが」などに対して、保護者対応や危機管理のための園内研修等を実施するなど、リスクマネジメント強化を行う。

### 4. 学校関係者評価委員会の評価

#### (1) 目的

本園の教育活動その他の学校運営の状況について、学校関係者による多面的な評価を得ることにより園の適切な運営と改善をはかる。

#### (2) スケジュール

2023年11月1日（水）：京北幼稚園学校関係者評価委員会を設置

2024年1月16日（火）：第1回委員会

- ①委員の紹介
- ②委員会の目的・役割について
- ③園の概要、教育方針、改革状況等の説明
- ④園内の見学
- ⑤今後の学校関係者評価の進め方について

2024年3月11日（月）：第2回委員会

- ①学校評価保護者アンケートの結果報告
- ②教員自己評価調査の結果報告
- ③自己評価・学校関係者評価報告書の作成について

#### (3) 委員

##### <園外委員>

- ①幼児教育に関する理解及び識見を有する者  
井口 眞美 氏（実践女子大学生生活科学部生活文化学科准教授）  
内田 千春 氏（東洋大学福祉社会デザイン学部子ども支援学科教授・学科長）
- ②幼稚園に在籍する園児の保護者  
押切 瑞穂 氏（2023年度父母の会会長）
- ③近隣地域からの代表者（近隣町内会等）  
植野 久代 氏
- ④近隣地域の小学校校長  
矢部 明美 氏（文京区立駕籠町小学校校長）

##### <園内委員>

- 川合 正（園長） \*議長  
高橋 季巳江（教頭）

#### (4) 評価結果

保護者対象のアンケート結果から、教員らは園児に対して温かく丁寧な関わりを心がけており、適切な保育が行われていると評価できる。総じて保護者の満足度が高いのも、これまで、地域に根差し、保護者たちと共に園文化を築いてきた成果と言えるだろう。

教員らの自己評価からも、園児一人一人が安心して過ごせる場づくり、思いやりの心を育む指導を行っていると共に、教員自身が園児との活動を心から楽しんでいる様子がわかる。適切な「保育方法展開」が実践されており、問題はない。

一方、今回のアンケートや自己評価で明らかになった「安全管理」や「環境整備」に関する課題については、安全管理の徹底のため、園内の危険箇所を職員全員で点検し、いわゆる“ヒヤリハット”を洗い出す、警察等、地域の協力体制を強化するといった具体的な対応策が求められる。「安全管理」や「環境整備」に関して改善を図ることはもちろんであるが、これまで実践してきた内容及びその意味や意義について保護者に向けてわかりやすく発信する必要があると考えられる。

教員の作業負担の軽減と業務の効率化をめざして、ICT や大学及び地域のリソースを活用することを検討されており、上記の課題改善への一歩として期待される。業務や保育カリキュラムマネジメントへの ICT 活用を着実に進めていっていただきたい。

来年度より「東洋大学附属京北幼稚園」へ名称を変更することで、保護者や地域からの大学への期待も高まることだろう。生物の飼育栽培を含めた保育環境にかかわる課題の解決に向け、大学教員や学生の協力を得て、園内だけではできないことを実現し、保育内容の充実が図られるとよい。当然ながら、施設整備・人的体制の充実等のみならず、保育内容の一層の充実に向けて様々な面での大学との更なる連携を願う。